

Y11a            **バリアフリー天文絵本プロジェクト**

嶺重慎(京都大)、高橋淳(水海道一高)、長岡英司、辰巳公子(筑波技術大)、成松一郎(読書工房)、臼田-佐藤功美子(NAOJ)、篠原秀雄(蕨高)、広瀬浩二郎(民博)、南谷和範(大学入試セ)、八木陽平(JAXA)、坂井治、高橋貴子、高山久美子、藤原晴美ほかプロジェクトチーム

われわれは平成 19～20 年度に、大学や盲学校に在籍する視覚障害者が天文学を学ぶためのマルチモーダル版天文学教科書を、制作・刊行した(2009 年春季年会で報告)。これは、大学初年度レベルの天文学入門教科書を活字版、点字・点図版、音声版、電子ブックの異なる 4 形式で提供するもので、盲学校でこの教材を用いて出前授業を行ったところ、学習に有効であることが確認できた(2010 年春季年会で報告)。ディスレクシア(読み書きに特別の困難をおぼえる障害者)の学習にも有効であろうと期待される。

今回、その経験をふまえて、2つのプロジェクトを並行して進めている。一つは、前回作成した教科書をベースに、中高生向けに内容を平易にした天文学習教材を製作するもので、京大全学経費の援助を受けている。内容は、太陽、月、太陽系の惑星を中心に、より身近な題材を選び、イトカワや系外惑星など最新の話題にも触れた。すでに活字版、点字版の試作品を完成し、11月に京都府盲学校で小学校6年生向けに出前授業を行った。3月に完成予定である。もう一つは、小学生向けの天文絵本を新たに書き下ろすもので、天文台や望遠鏡にもふれながら、惑星や恒星や宇宙について紹介する内容となっている。1月発行のこども向け科学雑誌「大きなポケット」に掲載する絵本原稿をもとにする。こちらは三菱財団の助成を受けており、9月に完成予定である。

講演では、まず、それぞれの試作品・完成品の内容を紹介し、2月にも行われる出前授業での評価と、そこから出てきた課題を報告する。また、今後の展望も議論する。